

浅川扇状地遺跡群現地説明会資料

(一財) 長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

1. はじめに

長野県埋蔵文化財センターでは、県道高田若槻線建設（長野建設事務所）に伴い、平成23年4月から浅川扇状地遺跡群の発掘調査を実施しております。平成23・24年度の発掘調査では、弥生時代から平安時代の集落跡や中世の堀跡などが見つかっています。集落跡では、竪穴住居跡が113軒発見されており、その多くは奈良・平安時代のものです。中世の墓跡も4基確認されました。

今年度の調査では、弥生時代～平安時代の竪穴住居跡のほかに、江戸時代末期の火災の跡、中世以降の水田跡（時期は未確定）や掘立柱建物跡が見つかりました。

本日の説明会では、桐原地区の古墳時代から平安時代の竪穴住居跡、中世以降の掘立柱建物跡・井戸跡などを公開し、そこから出土した遺物を展示します。旧北国街道沿いの調査で出土した、江戸時代の瓦や、土製一分銀など、吉田地区の出土遺物も展示しています。



3区から調査区全域を望む（南から撮影）

2. 調査の概要

所在地：長野市吉田1丁目、桐原2丁目

調査面積：約8,500㎡（表面積）

調査期間：平成25年4月8日～12月18日

調査原因：県道高田若槻線建設に伴う発掘調査

今年度の調査で発見されたもの：

遺構 竪穴住居跡45軒（弥生時代7、古墳時代7、奈良・平安時代27、不明4）

掘立柱建物跡1棟（中近世）、溝跡7条（弥生時代2、古墳時代1、奈良・平安時代4）、土坑約500基（古墳時代～中近世：柱穴、井戸などを含む）、水田跡2面（中近世）

遺物 弥生時代の土器、古墳時代～平安時代の土師器・須恵器、近世の瓦・土製品など

長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4
TEL(026)293-5926 FAX(026)293-8157
E-mail info@naganomaibun.or.jp
インターネット（最新の情報はこちらから）
長野県埋蔵文化財センター 検索
<http://naganomaibun.or.jp/>



3. 説明会の見どころ

①江戸時代北国街道沿の調査

今年度は相ノ木通り（旧北国街道）沿いの発掘調査を行いました（5a・6c区）。5a区からは、江戸時代末期と思われる火災の痕跡や、一分銀を模した土製品（写真上）が出土しました。火災で焼けた大量の瓦が出土した穴（写真下）からは、寛永通宝と一緒に出土しています。1864年（元治一年）の「田町の大火」との関連が想定されます。また、土製の一分銀は、玩具、賭博用具などの用途が推定されますが、類例が少なく用途はわかりません。



土製の一分銀（上）・瓦が出土した穴（下）

②大きな掘立柱建物跡

桐原牧神社の、南側の調査区（3区）では中近世の大きな建物跡が発見されました。平石を底に置いた柱穴が4.5m×15.1mの長方形に並んでいました。中世以降の建物跡で、柱を地中に埋める掘立柱建物跡としては、大型のものです。調査区の近くには中世の桐原の要害、近世の高野氏館跡があったとされています。これらの有力者に関わりがある建物であったかもしれません。



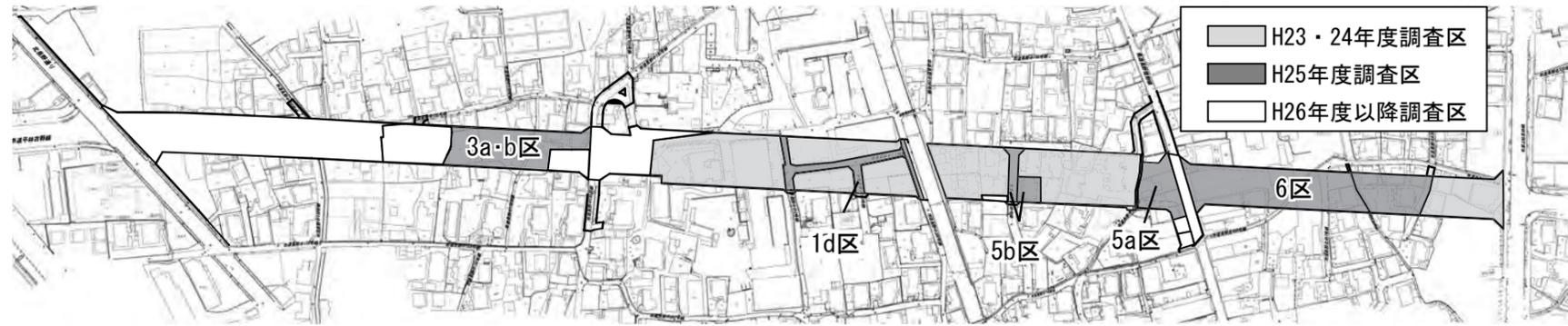
大型の掘立柱建物跡（柱穴に人が立っている）

③弥生時代からつづく集落跡

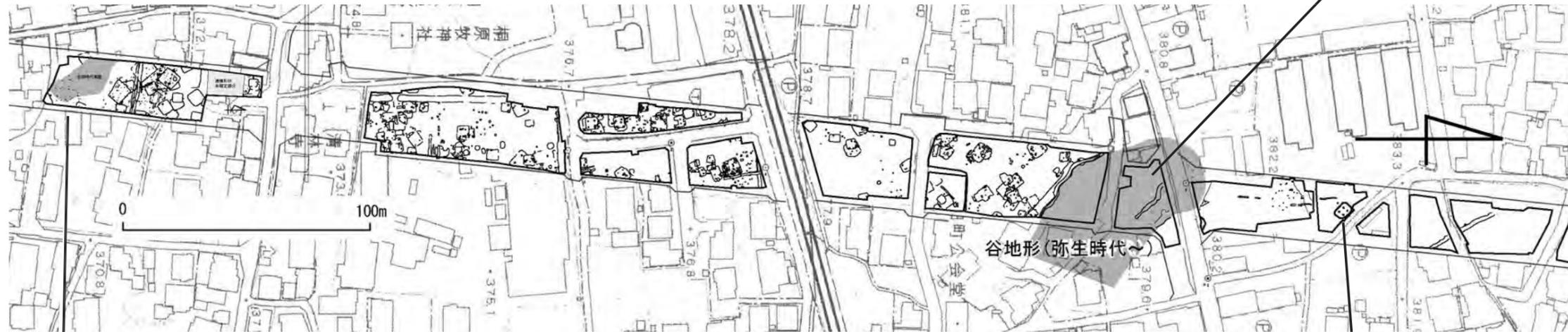
今年度の調査では、弥生時代後期（約1,800年前）から平安時代（約1,100年前）の竪穴住居跡が45軒確認されています。この他、中世以降の掘立柱建物跡も何棟かあります。今回公開する調査区（3区）では、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中近世の建物跡が重なり合って発見されている場所もあり、時代を超えて同じ場所に家を構えていた様子がわかります。



重なり合う竪穴住居跡（吉田地区5b区）



近世の出土遺物



SB3010 遺物出土状況 (古墳時代中期)



弥生時代後期の竪穴住居跡

